

太宰府市地域福祉に関する分野別課題調査（子ども・子育て分野）

集計結果

●調査概要

○回収結果

配布件数（件）	回収件数（件）	回収率（％）
65 件	44 件	67.7%

※以下、回答内容については、調査票にご記入の表現をそのまま使用させていただいております。

※回答内容に応じて分類わけを行い、件数を併記しておりますが、重複する分類もあるため、回答数と件数は一致しない場合があります。

I. 貴団体に通われている子どもたちの現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

1 保護者のなやみ、子どもへの影響について（8 件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・核家族化が増えているため、夫婦の中での不安や悩み、子育てのことなどを話せず抱え込んでいる。
	解決策	・子育て支援センターがあるので、子育てについての悩みなどは話す場を利用できる。
2	現状・課題	・子どもの問題というより親の問題が大きい。 ・さまざまな要因からくる親の養育能力不足（精神疾患、知的な問題、経済問題、サポート不足などに「ヘルプが」言えない（言わない）。 ・家庭環境がベースとなり児の発達不良←療育施設がない。
3	現状・課題	・核家族世帯が多くなり、育児について相談する相手がいない。また、いたとしても同じ悩みを共感できるが解決にはならないこともある。 ・インターネットでの情報を信じがちで、それぞれの子どもの状況に合わせての捉えが難しい。 ・支援センターなどに出向くことができない方（交通手段）がいる（情報を知らない方がいる）。
	解決策	・子どもの実際の姿に合わせた子育てができるような相談機関があると良い。また、交通手段を考える。
4	現状・課題	・保護者の方の余裕のなさからくる生活リズムの乱れ、問題行動、不登校などが多くなっているように感じる（経済的、夫婦問題（DV）、多忙、子どもの育てにくさ、社会的孤立）。
	解決策	・保護者の余裕をつくる支援、孤立を防ぐ支援が必要だと考える。常態化している場合は気づいてもらう支援も必要。
5	現状・課題	・近くに相談できる家族や友人がなく、子育てで悩んでいる方が多い。
	解決策	・近所づきあいもなく、転勤などで親の援助を受けにくい方が相談相手や友だちになれる場を求めて来所しているので、もっと多くの方に気軽に立ち寄れるように施設を知ってもらう。

他多数

4 家庭での過ごし方、家庭教育について（3件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・園で過ごす時間が長いお子さんは、もっと家庭で甘えたかったり、心の安心感を求めているのではないかなと感じることがあります。私たちもできる限り心に寄り添うように心がけています。離乳食を始めるにあたって家庭ではどうされているのかなと心配になることがあります。
2	現状・課題	・子どもの養育が十分に行き届いていないと感じられる家庭。
3	現状・課題	・しつけをきちんとされている親とそうでない親とに差がついてきている。基本的な生活習慣の自立ができていないまま平気で入園させてきます。「頑張ったけどできません」で結局入園して、私たちが保育中にしつけたり、始末をしているのが現状。
	解決策	・一緒に頑張ってくれる先輩ママ（ばあば）がいれば…。

5 基本的な生活習慣などについて（3件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・Youtube やアニメ、ゲーム、スマホなどメディアを多く使っている姿や様子がみられる。
	解決策	・メディアは上手く使わないと脳の発達に悪影響があるため、園だよりなどで情報発信をする。
2	現状・課題	・家庭での食事がお菓子やアイスだけだったり、離乳食が進まなかったりと食への関心が薄くなったり、偏食が生まれたり、生活のリズムが整っていない家庭も多い。
	解決策	・面談などで伝えている。
3	現状・課題	・基本的な生活習慣や態度が身につけていない。 ・自制心や耐性、規範意識が育っていない。 ・運動能力の低下、多様な体験を経験する機会が失われ、安易なゲームなどの遊びが増え、心が豊かに育っていない。
	解決策	・さまざまな経験を通し、人間関係を深めていく。 ・危ないから排除するのではなく、ケガをしないよう遊ぶ方法を学ぶ場も必要だと思う。

6 発達に課題のある子どもや療育について（3件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・お子様たちの成長において、療育などへの相談をしたいときに相談しても予約待ちの時間が長く、すぐに療育がスタートできない方がいる。
	解決策	・どういう状況なのかこちら側では把握できないので（相談状況が）お知らせなどがあれば保護者へも伝えやすい。
2	現状・課題	・発達障害などをなかなか受け入れられない保護者もいます。
	解決策	・勉強会（保護者向け）などをしてほしいです。気軽に参加できることが重要です。

NO.	内容	
3	現状・課題	<p>①頻度の高い療育が必要なお子さんが通えるところがない（こぐま学園もすみれ園もいっぱいの状態。児童精神科も）。</p> <p>②あからさまではないが、幼稚園や認可外保育の入所を断られるケースがある（きらきらに行っていることを言う）。結果、子どもは集団経験が積めず、保護者は仕事復帰できない</p> <p>③園への行き渋り、園生活のストレス、不応で辛い思いをしている（勉強中心の園で親子ともに疲弊。転園したいが、どこも待機児童がいて無理）。この声を出すとところがない。役所に行っても自分で探してくださいと言われる。</p> <p>④園の先生が子どもを理解してくれない。</p>
	解決策	<p>①子ども発達相談室を拡充して療育ができる体制づくりを行う（他市は実施済み）。本市の支援が必要な子は、本市でしっかりと公的にみていく。</p> <p>②小・中学校の特別支援クラスがかなり増設されているということは、就学前にもそれだけ支援がいる子が増えているということ。小学校に上がる土台となる就学前で適切な環境や関わりができるための加配配置・補助金は必須。</p> <p>③きちんとそれぞれの悩みに寄り添い、安心して相談できるところが必要。市役所に子育てコンシェルジュを置く。</p> <p>④正しく学ぶ場が必要。保育・児童課が主体で園支援（訪問）をしていく。</p>

7 その他（7件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待、ネグレクト。 ・ゲーム依存、ネット依存。
2	現状・課題	母子家庭が年々増加している。それによって、共働きでも核家族のため待機児童となっているケースが多い。
3	現状・課題	・その通われている子どもたちにも、何か通われている理由があるので、私は詳しいことは知りません。
4	現状・課題	・保育園や幼稚園など、集団における児の行動が問題とされる ことが多・いが、信頼できる大人のことは子どもたちは素直に聞き入れることができる。問題行動を起こしていると捉えている大人（保護者）の方が課題だと私は考えている。
5	現状・課題	核家族世帯へのサポート（病児、保育園時間外）。

他多数

Ⅱ. 子育て中のご家族の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

1 核家族化、子育て家庭の孤立化などについて（10件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・共働き家庭が多く、核家族ばかりで育児相談をできないのではないかな。
	解決策	・母親と一緒に父親が育児に参加できるようにもっともっと環境を整える。
2	現状・課題	・祖父母が遠方に住んでおられる家庭が増えてきており、お子さんの病気のときの対応が両親だけになる。
	解決策	・病児保育を利用される家庭もあるが、利用できる人数が限られている。病気のときに預かってもらえる体制づくりが必要だと思う。
3	現状・課題	・近隣の人間関係などの希薄さにより、子育ての仕方や方法がわからない様子である。
	解決策	・もう少し子育て中の保護者向けの研修などの機会があればとも思う。保護者支援の支援内容が気になるところがある（子どもにとってのプラスになる支援であるのか…）。
4	現状・課題	・核家族で祖父母も働いており、援助を受けられない家庭が多い。
	解決策	・行政サービスを受けやすい環境が必要。
5	現状・課題	・在宅の保護者においては、乳児であったり、上のお子さんが小さいと外に出る機会が少なく、外の情報がわかりにくい状況がある。2人もしくは3人お子さんがいる場合、自家用車がない方は支援センターなどにも行けず孤立化しやすい。

他多数

2 子育ての課題や悩み、その相談先について（9件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・子どもとの過ごし方がわからなかったり、生活リズムの整え方がわからないことが多い。
	解決策	・保護者と話をするきっかけをつくり伝えていく。また、その家庭に合った方法をともに考えていく。
2	現状・課題	・子育ての相談ができる人が近くにいない。 ・「子どもとの接し方、関わり方がわからない」と悩む保護者が多いように感じる。
	解決策	・「相談センター」のことを知らない、知っていてもどこに行けば良いかわからない人のために、ネットで調べる人も多いため、市のホームページやサイトに載せる。
3	現状・課題	・1人で悩んでいる方もいらっしゃるようになります。
	解決策	・できるだけ声かけをするようにしていますが、市役所などでもっともっと軽く相談できる場があると良いのかもしれません。
4	現状・課題	・情報は多いが、自ら取捨選択し、何が正しいのか、何が間違っているのか判断しにくい状況がある。コロナ禍でその状況はさらにすすんでいる。
	解決策	・細やかな電話フォローや訪問が求められる。
5	現状・課題	・子育てに悩んだときの相談。行政に対しての敷居の高さ。
	解決策	・どこに相談すれば良いかを明確にする。

他多数

3 時間的、精神的余裕がないことについて（9件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・子育てをしている多くが共働きである。共働きをしながら子育てをする上で、どうしても家事・育児の負担となりバランスが保てないことが現状である。このバランスの不安定さがストレスとなり、子どもにあたってしまい、子どもまでストレスを負うこともある。
	解決策	・パートナーとよく相談し役割分担するなど、子どもとの時間をつくることが大切と考える。
2	現状・課題	・親の余裕がない。
	解決策	・核家族化がすすみ、以前は実家が担っていた機能が使えない現状にある。行政がその機能を補うことができれば余裕が生まれると思う。
3	現状・課題	・就労しているかどうかとも関係していると考えますが、とにかく時間がない。毎日バタバタ過ごしていると思うので（私がそうなので）、それが解決できればと思いつつ、それが「子育て中」だとも思っていて、解決策を考えることをやめました。時間がない子育て中こそが幸せだと感じられるように子育て中の家族が思えるようになると良いですね。
4	現状・課題	・共働きだからといって、決して余裕があるわけではない。子どもの人数や収入が低い夫婦もいるので、ひとり親家庭ばかりを視野に入れなくていただきたい。
5	現状・課題	・育てにくさにより、特に母親が自信をなくしている。良くない対応（手をあげる、激しく怒ってしまうなど）、虐待リスクが高い。
	解決策	・年齢が低い子は未就園が多く、24時間母子の生活のため、短時間でも保護者がゆっくりできる時間が必要。 →支援のいる子を預かってくれる一時保育、レスパイトの充実。 ・保護者自身が支援のいる方も多い（発達、うつなど）。

他多数

4 保護者（両親）の課題やその影響等について（5件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・Iと同じ。（子どもの問題というより親の問題が大きい。さまざまな要因からくる親の養育能力不足（精神疾患、知的な問題、経済問題、サポート不足などに「ヘルプが」言えない（言わない）。家庭環境がベースとなり児の発達不良←療育施設がない。）
2	現状・課題	・保護者の生活状況が子どもに大きく関係しているため、保護者への指導（支援）も必要であり、多様な生活環境に合わせたアプローチが必要。 ・食生活に課題がある子どもは、家庭背景や生活状況に問題を抱えているケースが多い。
3	現状・課題	・保護者が精神的に病んでいる、ネグレクト。 ・父親の子育てへの関心が薄い（特性）義父の子どもへの接し方
	解決策	・相談できる人・機関がほしい。でも難しい課題です。
4	現状・課題	・父親の協力ははずいぶん多くなってきたとはいえ、父親は仕事で帰りが遅いなど、母親だけが子育てをしている方が多い。また母親も仕事をして外へ出たい方が多い。
5	現状・課題	・父親がスマホのゲームをして育児に参加していない。

5 発達に課題のある子どもや療育について（3件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・育てにくさやこだわりなど、親や保護者にとって困りごとの多いお子さんには発達に何らかの問題を抱えていることがある。
	解決策	・まず相談機関の利用をすすめたり、さらには病院での検査も有効であると思う。
2	現状・課題	・子育ての悩みや発達の悩みなどを抱えている人が多い。
	解決策	・悩みを相談できる場所づくりが必要。
3	現状・課題	・子育てに自信がない。子どもをかわいいと思わない。他の子と比べると発達や言葉が遅いような気がするなどの悩みを抱えている。

6 その他（2件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・コロナの中でも安心して住める環境。
2	現状・課題	・不審者などで安心して公園で遊ばせたりできなくなった。
	解決策	・子どもが自由に安全に遊べる環境整備が必要。

Ⅲ. 子育て中のご家族のなかで、とりわけ低所得などにより生活が困窮している世帯の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

1 基本的な食生活・生活習慣への影響（10件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・TPOをわきまえた身だしなみができなかつたり、十分な食事を摂ることができず、低栄養状態になることが懸念される。衣・食・住の3大要素が損なわれると思う。
	解決策	・低所得世帯に対し、自治体は何らかの対策手段・方法を発信しているが、仕事・家事・育児でなかなか書面を見る時間がつくれていないのではと考える。昨今ではSNSが普及しているため、いつでも、どこでも気軽に情報を受けるようなネットワークづくりが必要と考える。
2	現状・課題	①食事が3食きちんと食べられていないなどの問題 ②服にお金がかげられないなどの問題
	解決策	①保育園や学校給食などである程度の栄養を補えるようにする。子ども食堂の活用、促進。 ②保護者同士で服を譲り合える機会をつくる。
3	現状・課題	・食生活が乱れている。3食バランス良く食べていない。早寝早起きの習慣がなく、朝ご飯を食べていない子がいる現状。
4	現状・課題	・今は特にコロナ禍で収入が減ってしまっている家庭も多いと思う。保護者の栄養状況は、保護者だけでなく赤ちゃんにダイレクトで響く。心の病気にもなりやすいと思う。また、衛生環境（紙オムツを替えない・衣服の衛生など）も心配。
5	現状・課題	・必要な栄養が十分に摂れていないのではないかと考えられる。
	解決策	・保育所・園に通うことで、給食とおやつを食べることができる。

他多数

2 経済的不安定、家計管理（9件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	①子どもにかかる教育費が少ない。経済的な不安を解消できれば良い。 ②ひとり親家庭の場合、子どもが病気になると仕事を休み、収入が減る。
	解決策	②病児保育の病院などの充実。
2	現状・課題	・十分な経済力がないことによって、食費や教育費にかけられるお金が足りない。
	解決策	・雇用確保・高校まで授業料免除。
3	現状・課題	①多子世帯 ②保護者の方が精神疾患などにより就労できない、または仕事が続かない。
	解決策	①出産前に出産によりお金がどのくらい必要か助言する機会をつくり、計画的な子育てを促すことができれば良いと思います。 ②病院と連携して就労支援を行うことができる、3～6ヶ月くらい集中的に伴走してくれる相談機関があると良いのではないのでしょうか。
4	現状・課題	・お金使用用途の配分がわからず、お金が不足していることがあるとか。
5	現状・課題	・孤立感、情緒不安定。 ・経済的な不安。
	解決策	・ひとり親家庭を対象とした食品の配布や、子ども食堂などの設立。

他多数

3 塾、習いごとなどの余裕がないこと（5件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・習い事に行かせられない。
	解決策	・低価格で提供する。
2	現状・課題	・年中や年長ぐらいになると、スイミングや英会話などの習い事を始める家庭も多いが、子どもが何かに興味を持ち、したいと思ったときにさせてあげられない。
3	現状・課題	・習い事などの教育の格差。
	解決策	・低所得（ひとり親）などの世帯への習い事の助成金。
4	現状・課題	・低所得によって子どもにかけられる教育費がない（習い事含む）。
5	現状・課題	・生活に困窮している世帯は心の余裕、教育への投資などさまざまな場面で課題がみられる。
	解決策	・根本的には経済への支援、制度の見直し。とりわけ申請（これも繁雑かも）することから始まりますが、支援内容を知らないため広報がもっと必要。

4 子ども自身の意欲への影響、貧困の連鎖（3件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・低所得であるがゆえに、あきらめなければならないことが多くなって、その家庭の子どもが挑戦する気持ちや意欲がなくなっていき、やがて勉強も遅れがちになり、多くが親と同じように定職に就けなかったり、低所得になることで負の連鎖が止まらないことが問題になっていると思います。ただ、今はこの生活困窮の現状は外に現れにくく、早い段階で手を差し伸べることが難しい現状があるように感じます。また、親自身の「怠け」が招く生活困窮なのか、そうではないのかもアプローチの仕方は変わってくると思います。
2	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・低学力、学習意欲の萎え、情緒不安定、ストレスなど。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習支援」や「子ども食堂」など心を満たしたり、悩みを相談できる場所をつくる。
3	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・何が原因で低所得になっているのかにもよると思うが、働いていない、働いたことがない、シングルになって働かなくてはいけなかった、社会経験がないなど。働けば問題解決できることなら就労支援。低所得の連鎖から抜け出すための就学・奨学支援。あわせてお金のことだけでなく、将来に向かって自ら考え挑戦すること、目標達成の経験など義務教育の中で子どもと親に教育する…とか。

5 支援制度やその周知啓発（3件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活が困窮している家庭は、困窮しているから支援（経済的な問題で）のサービスを利用しづらかったり、情報を得ることができにくかったりする。家で親と子の密室状態になる。そのせいで、母親の気持ちの逃げ場がなく、ストレスがたまり子どもに辛くあたるようになってしまうといった悪循環が生まれている。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・低所得の家庭でも利用しやすいサービスがあると良いと思う。
2	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所するとき、子どもの病気で仕事を休まざるを得ず、給料がマイナスになった保護者がいました。生活支援課を紹介したが、今の段階で受けられるものはないと言われた。車を持っていることで、生活保護を受けられない。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し個々の状況によって緩和できないのかと思う。遠くの親類に預けるので保育所も休みがちで、保育の保障にならない。そうやって学力的にも差がついてくるのではないか。
3	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の周知がなされていないために利用できないこと。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・周知を徹底。チラシを配るだけでは見ない人も多いため、話を聞いて提案する方が良いと思う。ただ、その場合でも支援者が主導権を握らないように配慮が必要。

6 その他（10件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・児童相談所などが積極的に関わっていくしかないと思います。低所得なのか？まわりではわかりにくいです。
2	現状・課題	・子育てしながら働けるようにする（お金が必要なので、できるだけ収入があって、支出はサービスを利用できるものにする）。
	解決策	・育ち盛りの中学生がいるとお弁当も大変なので給食があると良い。
3	現状・課題	・ほったらかし状態もありえるので、少しでも親の力になれるのなら相談に乗ってあげ、改善策をみつけていきたい。
4	現状・課題	・延長保育を利用している子どもが増加している中、仕事と家庭との両立をされている保護者が多い。その中で、子どもとの向き合い方について仕事も大切だが、まずは親が子どもとしっかり向き合い、子ども自身が愛情に満たされていると感じることができるよう、家庭のことを振り返ってほしい。
5	現状・課題	・多くの課が関わっている場合の連携が十分にできていない。各々の課でできることを行い、完結している印象が強い。

他多数

IV. ご両親と子どもだけの家族（いわゆる核家族）では、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか。

1 保護者または子どもが体調不良時の対応について（15件程度）

NO.	内容
1	・病気をしたとき、自分が仕事を休まないといけなくなり、思うように仕事ができない。
2	・子どもの体調不良時にサポートがないため、仕事を休まざるを得ない。
	・ファミサポも急には利用できない。 ・病児保育もお金がかかる。
3	・核家族は、自分たちのペースで生活できることが利点である。しかし、子どもの体調不良や成長・発達についての悩みごとなどをすぐに相談したり、アドバイスを求めることができずにいるのが欠点である。コミュニケーション不足によるストレス増大や、子どもにとっても物事を考える際の選択肢が減ってしまうことも考えられる。
4	・困ったときに近くに助けてもらえる人がおらず、特に両親が共働きだった場合に、子どもが熱など体調を崩した際など、仕事を早退しないといけず、職場への申し訳なさから悩んだりしている。自分の時間が持てずに心に余裕がなくなる。
5	・急用や急病でお子さんを預けることができないときや、夫婦で解決できないことを身近に相談に乗っていただける場所があれば良いかなと思います。

他多数

2 子育ての課題や悩み、その相談先について（9件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・育児の悩みを相談する人がいない。 ・生活に追われ、子どもにゆっくり接する時間がないのではないか。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てがわからない。相談する相手が近くにいない。 ・実家など、緊急のときに頼れる人がいない。 ・（特に母親が）ワンオペ育児になりやすく、負担になる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・育児に関する孤立感。 ・親子の接触時間が不足している。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃のサポートがなく、頼れる夫が仕事でいなくて帰宅も遅く、日中1人で育児しないといけなく、母に余裕がなくなる。夫も忙しくて疲れているだろうから…と相談しづらい状況もある。外に出てこれるところは良いが、困っている家庭ほど出てこれない状況があると思われる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育て方や発達段階がわからず悩んでいても、相談する人がいない。

他多数

3 周囲のサポートについて（6件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・親以外に子どもを叱る大人が少なくなったことにより、食器具などの持ち方や食事マナーに対する指摘が減る。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事で忙しいときなどに周囲にサポートを求めることが難しくなる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとだけ助けてほしいというときに、助けてくれる人がいないことは母親の精神的な余裕をゼロにする。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・相談相手や手を貸してくれる祖父母がいないことは、精神的にも肉体的にも両親の負担になると思う。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・相談相手や何かあったときにサポートしてくれる人がいないことが心細いと思う。 ・核家族とは限らないが、父親の携帯利用について母親が困っているという話をよく聞く。子どもと遊ぶより携帯をいじっている。遊ぶ様子を見ながら携帯をいじっている。どう話してもやめない。「休みの日ぐらい好きにさせてほしい」と言われて何も言えないと悩んでいる母親が多い。

他多数

4 時間的、精神的余裕がないことについて（3件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・父母（特に母親）に休まる時間が少ない？ ・祖父母、少しの間でも家事、育児のどちらかを代わってくれる人がいたら気分転換もできるのでは？ <p>※保育園に預けることで、自分の時間をつくるご両親も多いが、そればかりになると今度は子どもと親の関わりが少なくなり、子どもが心理的に不安定になることも考えられる。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・家族で発生した課題をうまく解決できていない。両親ともに忙しく家族について考える時間が少ない。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりがほしいですが難しいです。近所づきあいができると良いです。 ・父親の帰りが遅く、母親だけで子どもの世話をしなくてはいけない場合、母親だけでは手が回らないと言われる方が多い。

5 その他（7件程度）

NO.	内容
1	・コロナウィルスのため、休校になったりしたとき、また、ちょっとした何か（親の用事や体調不良、または子どもの体調不良）の際に安心して預ける場所がないため、仕事を休む調整をしなければならないなど。
2	・夫婦共働きで、母親がフルタイムで働いている家庭だと子どもの夕飯の時間や就寝時間が不規則になっていたりする家庭もあると思う。父親の帰宅時間がいつも遅かったり、休みが少なかったりすると、家族のコミュニケーションがとりづらい。
3	・親の中には、親が子の手本になっておられない方がいます。挨拶、偏食、会話（話し方）、態度、生活リズムなど…。なので、親になったら…という望ましい親の姿を学ぶ場所が必要なのかも…。
4	・子どもに関心が持ちにくいところがあったり、子どもに時間を割く、とられることが難しかったり、苦痛だったりしているのでは？
5	<ul style="list-style-type: none"> ・一概には言えないが、男女の収入格差を考えると、母子家庭の方が経済的に苦しい場合が多い。 ・父子家庭の方が周りへ相談したり、ヘルプを出しにくく孤立しやすい。父と娘など異性の場合、思春期や体の変化への対応が父ではわからず、悩む場合がある（父子の無理心中のケース）。 →よく「ママサポ」は見るが、「パパサポ」父へのサポートや相談できるところを市民にわかりやすく伝える。 ・ひとり親で自分が倒れたときや、子の病気のときみてくれる人がいなくて不安。 ・親1人、子1人の場合、親子関係に問題が起きたときに逃げ場がない。ヘルプだけしてくれる人、仲裁者がいない。 ・児童発達支援を園と同一日利用ができないというしぼりは、特にひとり親にとっては仕事に行けないことにつながり、改善してほしいという声が出ている。

他多数

V. ひとり親家庭では、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか。

1 保護者または子どもが体調不良時の対応について（15件程度）

NO.	内容
1	・急用や急病など、すぐに相談に乗っていただける方や場所が近くにあったら安心して生活できるのではないかと悩まれることがあると思います。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの急病が原因で仕事に行けない。 ・残業で仕事が遅くなると、家で子どもだけで待つ不安。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・体調を崩したときに誰も頼る人がいない。 ・サポート体制やホームヘルパーなど（無料でできれば！）があれば…。
4	・家庭と仕事の両立の中、子どもが体調を崩したりすると、仕事を休むことができる環境などが整っていれば良いが、そうでない場合は親にも子どもにも負担がかかっているのでは。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に就かないといけなけれど、子どもの預け先がみつからない。 ・母親が体調が悪いときなど、身動きがとれないときに助けを求めるあてがない。

他多数

2 子育ての課題や悩み、その相談先について（10 件程度）

NO.	内容
1	・子育ての悩みやストレスを相談する人がいない。
2	・父または母がいないという子どもへの申し訳なさや子どもに寂しい思いをさせているのではないかという不安。ひとり親家庭だと必ず働きに出なくてはいけないことがほとんどだと思うので、子どもと過ごす時間がなかなか持てないことに悩んでいるのではないか。
3	・父親、もしくは、母親の役割を両立しなければならないところ？ ・誰かに頼りたいときに、いちばん身近な人がいないこと？
4	・子育ての悩みを抱え、なかなか相談できないのではないかと思う。
5	・自分だけではどうしたら良いかわからないという全てだと思う（お金・教育・健康）。

他多数

3 周囲のサポートについて（6 件程度）

NO.	内容
1	・近くに親族など頼れる人がいなくて、子どもがまだ小さかったりすると、なかなか1人でゆっくり過ごす時間がほとんどなさそうだなと思う。
2	・ひとり親家庭（母子）のほとんどは、母方の実家に同居している。母方の家族が協力している。
3	・問題は多岐に渡っており、書ききれない困り感がたくさんある。そこに心を寄せる人があまりに少ない。
4	・サポート、人手が足りない。
5	・相談相手や何かあったときにサポートしてくれる人がいないことが心細いと思う。

他多数

4 経済的不安定、家計管理（4 件程度）

NO.	内容
1	・世帯収入が少ない。
2	・収入についてや保育所入所の問題について。
3	・経済面や子育てについて、仕事に忙しくて、子どもへの教育やしつけが厳しい。もちろん頑張っている方も多いです。 →ひとり親家庭への支援もありますが、ひとり親や学校も支援内容を知らない。同時に支援を受けることは子どもの将来にとって良いことであるということ。やはり広報です。
4	・金銭的なことで困ってあると思います。

5 時間的、精神的余裕がないことについて（3 件程度）

NO.	内容
1	・仕事・家事・育児の両立がより一層困難になりやすい。経済面・精神面などさまざまな方面で不安が生じやすい。
2	・親に精神的ゆとりがない。
3	・経済的な困窮、リフレッシュできない、多忙のためママ友ができにくい、相談に行く時間がない、精神的&肉体的な疲労（全て1人で担うため）。

6 その他（2件程度）

NO.	内容
1	・④と同じ。(子どもに関心が持ちにくいところがあったり、子どもに時間を割く、とられることが難しかったり、苦痛だったりしているのでは？自分の子育て経験からして、子育て中はある程度の自己犠牲を伴うものだという考えからです。)
2	・働かなくてはいけないと思っても、保育所にスムーズに入れない。仕事をみつけるには、子どもを預かってもらう術を知らない。システム？

VI. お子さんや子育て中のご家族、妊産婦を支援する行政サービスについて、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

1 サービスの周知、わかりにくさについて（11件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・あまり知られていない、利用されていないと思う。
	解決策	・病院、保育園で呼びかけたりする。
2	解決策	・利用する人のニーズに応える。 ・良い行政サービスがあっても、知らないと利用できないし探せない。わからないと利用できないので、わかりやすく必要としている人に発信していく。
3	現状・課題	・ファミリーサポートなどのサービスがあるというのは知っていても、実際の利用者の声を聞く機会がなかったり、具体的な内容があまり浸透していないようにも思う。
4	現状・課題	・行政サービスは知らないと受けることができない。
	解決策	・いろいろな場所（駅やスーパーなど目につくところ）に貼ったりして、誰もが知ることが必要だと思う。
5	現状・課題	・相談に来れる人（時間的に余裕があり、制度や相談窓口を知っている人）か、重要な問題が顕著になった人が対象となっていること（現実的に）。
	解決策	・誰もが使いやすいサービスを充実させて周知することで子育ての負担を減らすこと、サービスを使うハードルを下げ利用することに対するスティグマの軽減を目指すことで問題が深刻化する前に防ぐことが必要。また、子育てはいろいろなもの（人）に頼りながら行うものということを周知することも大切。

他多数

2 既存のサービス、制度の利用条件について（6件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・核家族が多く、平日は仕事をしている方が多いので、祝・休日にサービスを多くしてもらいたい。
2	現状・課題	・出産一時金が足りない。
3	現状・課題	・回数制限のない妊婦検診。 ・父親の育児サポート→妊婦健診の項目に父親参加日をつくる。
4	現状・課題	・ファミリーサポート、病後児保育、産前産後預かり保育などで解決していると思う。
5	現状・課題	・相談体制は整えているが、他市町村と比較し利用できる育児支援サービスが少ない。 ・妊婦歯科検診、産婦健診、産後ケア、産前・産後サポート、家事支援サービス、双子タクシー助成など。

他多数

3 相談支援について（4件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・育児放棄にならないように、園でできることは相談に乗ってあげたいが、それが担任でも無理な場合は電話で聞いてほしい。
2	現状・課題 解決策	・悩みをどこに、誰に相談して良いのかわからない。 ・出産、子育てを経験した方に悩みを相談することができる施設の設立。
3	現状・課題	・乳幼児期早期に悩んだときにすぐ相談できる場について周知していくこと。行政の内部機関でそれぞれどのような業務を行っているのか情報共有していく必要があると思います。
4	現状・課題	・妊婦検診で手出しがある（補助券では足りない）。 ・出産一時金だけでは足りない（部屋などのオプション以外の値段は補てんしてほしい）。
	解決策	・妊活中（妊娠したい人）の人への風疹予防接種を無料にしてほしい。 ・3歳から保育料無料であるが、幼稚園のプレや保育園の2歳児も無料にしてほしい。 ・母乳相談、育児相談、子育て相談などに補助を出してほしい（今もあるが、日程が決められていて利用しにくい…）。 ・少子化対策のためにも高校卒業までの保育料、学費、給食費を無料にしてほしい。

4 保育所・園への入所について（3件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・保育所の待機児童。
2	現状・課題	・待機児童。
3	現状・課題	・兄弟が多くてなかなか子育てがうまくいかない、回らない方に短期間でも働いていなくても保育所に入所できないかなと思います。

5 産前産後、乳児のいる家庭への支援について（3件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・妊娠・出産に伴ううつ病や、産後の子どもに対するネグレクトは毎年増えている傾向にある。これらは、過緊張状態にあったり、育児疲れにより発生すると考える。
	解決策	・現在、自治体が行き届く“妊産婦への途切れない支援”を実施していくとともに、誰もが気軽に思いを打ち明けたり、相談できるようなコミュニケーションが図れる場を提供してほしい。
2	現状・課題	・コロナでも安心して過ごし、出産できる環境。病院（産院）などの利用について。
3	現状・課題	・妊婦もだが、赤ちゃんを連れて、また子どもが2人以上となると買い物や病院に行くのも大変。小さい子を連れて荷物を持ち、公共機関を乗り継いで…と行くまでが大変だと思われる。まほろば号も車体が小さいためベビーカーでの乗り入れが難しく、利用しづらいことを赤ちゃん訪問時によく言われる。
	解決策	・今回子育て支援センター開設にあたり、マタニティタクシーなどを提案したがお金がかかること、他市で行われていないことなどで実現できなかったことがとても残念だったので、今後また検討できると良いと思う。

6 その他（4件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・一昔前に比べると、こういった支援はとても充実していると思います。支援されすぎて、そのありがたみを忘れ「私は子どもを産んであげている」と勘違いしているのでは？と感じてしまう人がいるほどです。
2	現状・課題	・発達過程やある程度目安、月齢による差（個々の性格面によるものも含め）などに合わせてどのような関わりが大切かを教えてくれるところがあることと、それを広く発信することも必要とされているのでは？
3	解決策	孤立化しないよう行政が家庭を把握し、アプローチし、支援していく。
4	現状・課題	・市内の中には交通機関が整っていない場所が多くあります。車を運転しない方、車は父親が乗って行ってしまおう方は、子育て支援の事業などに行くことも難しいと思われます。交通機関があつたとしても、就学前の子ども2～3人いる方は乗り換えなどが大変だと思います。
	解決策	・産前から産後1年くらいは利用できるタクシーチケットがあると良いと思う。

Ⅶ. お子さんや子育て中のご家族を取り巻く地域の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

1 地域とのつながりについて（16件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・近所同士の横のつながりがないと、なかなか1人では地域の行事や催しには参加しないと思う。
2	現状・課題	・地域とのつながりは薄れていっていると思います。私が住んでいる自治会でも子どもの数は減る一方で、高齢化が進んでいます。小学校の登下校の見守りパトロールをボランティアの方々が担ってくれていますが、メンバーの高齢化で存続の危機を迎えています。
	解決策	・ボランティアの方々から子どもの成長を見守っていけること、自分の健康のため、誰かの役に立っているという喜びがやりがいにつながっているというお話を聞き、保護者世代でも地域の中に入っていきことで、コミュニケーションをとっていかねばとは思いました。しかしながら、親世代に共通意識を持たせることが課題だと感じています。
3	現状・課題	・できることなら、ご近所みなさんで子どもの成長に関わっていけたら良いと思います。現在では、隣に住んでいる人も知らないということがよくあるのが現状です。
4	現状・課題	・地域のつながりが希薄化するとともに、子育てなど相談できず、孤立化し負担が増え、ストレスを感じている。
	解決策	・支援事業などを増やす。
5	現状・課題	・地域の人との交流、隣にはどんな人が住んでいるのなかなかわからない現状がある。人との関わりが苦手と思う人が多く、子育て支援センターに出てくるのもきついという家庭もある。そういう家庭にはこちらから出向いていくこともある。
	解決策	・なにかしら発信があってからの対応になっているので、困っている、きつい、大変などを言える人は良いが、言えなくて悩んでいる家庭をいかにキャッチしていくかだと思う。

他多数

2 子育て家庭同士のつながりについて（4件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・高齢化している地域では子育て世帯が少ないので、情報収集ができない。
2	現状・課題	・昨今、待機児童の数が減らず増加傾向にある。3歳までに脳の拡大など、さまざまな場合において吸収し成長していく。よって、その時期に子どもは保育園、幼稚園に通うことで良い影響を受けることになる。
	解決策	・子育て支援センターのような設備が整った施設をつくるなど、親同士もコミュニティがつけられる環境が必要。
3	現状・課題	・今はママ友でのトラブルが多くなっているので、減らすためには地域でも考えていくこと。
4	現状・課題	・コロナ禍で地域の行事なども中止になっているので、子育て中の悩みなどを抱えた親同士が話し合える環境づくりがない。
	解決策	・相談窓口が身近に感じられるように設置していただきたい。

3 その他（8件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・小学生、中学生が気軽に利用できる施設が少ない。
2	現状・課題	・就園児（3歳未満）を受け入れる幼稚園が増えていますが、前項でも書きましたが、私はやはり3歳までは家庭で親と子がしっかり向き合い、しつけをする大切な時間だと思っているので、問題だと考えている。結局、自分でしつけられないので他人に頼ってしまう。時間はたくさんあるはずなのに、自分の時間の方を優先してしまっている方はいないでしょうか…。
	解決策	・やっぱり1人ではどうして良いかわからないから頼りたいんだと思う…サポート体制。
3	現状・課題	・核家族の世帯が多いため、相談できる相手は配偶者が主であり、日常的に子どもをみてもらえる知人や親族がないなど、困ったときに対応することが難しいことが多いと思われる。
	解決策	・行政側が把握し、問題を抱えていると思われる家庭には丁寧に接していただきたい。
4	現状・課題	・登校時の見守りなど、太宰府市は地域が協力して見守る体制が整っていると思う。
	解決策	・校区を中心としたボランティア活動などを活性化することで、安心安全な明るいまちづくりにつながっていると思う。
5	現状・課題	遊ばせたい公園があっても駐車場がなかったり、トイレがない。

他多数

VIII. 児童虐待を防止するため、地域では、どのような取り組みが大切だと思いますか。

1 地域の見守り体制について（20件程度）

NO.	内容
1	・孤立感を感じないような地域の方々の関わり支援。 ・親子で行ける場所を増やす。
2	・よく「見守り」と言われるが地域としても対応が困難。
3	・声かけと見守り→通報→家庭訪問→親子分離 ・最近、ネグレクトにも変化が…。遅刻や無断欠席は日常。注意すると反省するが改められない。携帯（ゲーム、メールなど）ばかりが大事?! しつけをしない（1人でいつのまにかできるようになると思い込んでいる）。愛情がないわけではなさそうなのに、親になれない方がいる気がする。
4	・地域の子どもたちを知り、親しくなっておくのが一番だと思います。声かけが大切だと思いますが難しいですね。
5	・保育園・幼稚園などのコミュニティの中での先生・保護者同士の交流を行っていくことや、民生委員・行政の関わりが大切だと思います。

他多数

2 保護者の身体的、精神的負担の軽減のための取組について（8件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポート、一時保育など。 ・ネットワークを通して情報を共有できれば良いと思う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・体のチェック（あざ、傷）。 ・親のフォロー。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で人との関わりが制限されると子どもと1対1で過ごす時間が増え、話す相手もおらず、育児ストレスから虐待が増えてしまうと思うので、子育てサロンのような集まりが厳しいのであれば、個別に面談ができたり、少し子どもと離れて話ができるようなスペースがあると良い。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診でもっと身体全体を観察する（内科ではサラッとしかみられない）。 ・子どもだけで参加できる催しを開催する（親の1人の自由時間をつくる目的）。 ・相談機関を増やす（育児相談という名目ではなく、何でも気軽にOKなタイトル）。
5	<p>地域との関わりが薄くなっており、介入を嫌がるケースもあると考えられる。関わる職員の顔が見え、信頼関係を築き、安心して相談できる体制が必要。</p>

他多数

3 早期の通報・通告につながる取り組みについて（8件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人は気にかけ、少しでも「あれ？」と感じたら専門機関に知らせる（過度な干渉は良くない）。通報を受け、様子を見に行ったりしても、すぐ虐待と決めつけず「大丈夫ですか？」とまず親に寄り添うことも大切だと思う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・泣き声通告などはすぐに様子を見に行ったりして対応している。迅速な対応が求められているし、赤ちゃん訪問も訪問のときに虐待やDVなどに対して自分たちがアンテナをはっておく必要があると思う。いろんな関係機関との連携は必須だと思う。地域に一番密着している民生委員さんや主任児童委員さんなどとも連携をしっかりと持ち、対応していくことが大切だと思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者（地域も）の意識改革→疑われるときも通報、毅然とした対応。でも、通報にはとても勇気がいります。簡単にはいきません。通報が難しければ子どもが通っている学校に相談するのも良いのでは。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・第三次地域福祉計画の市民アンケートにもありましたが、近くの人でもなかなかわかりにくいのがDVや児童虐待だと思う。密室の中でのことで弱い立場からは声をあげることができない。ましてや配偶者からだと訴えにくいと思う。自分の身近な人も含めて、常にアンテナをたてることが大事だと思う。また、ポスターやチラシなどの広報活動を活発に行い、虐待している人に対して「今行っていることは虐待ですよ」「みんな見えていますよ」と啓発することも抑止力になると思う。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の児童虐待相談件数は全国で193,780件であり、過去最多を記録している。福岡は4,652件であり、前年度より32%増加している。虐待の中で心理的虐待が多数占めている。よって、身体的虐待と違い目視できないことから、発見が遅れが生じる可能性もある。保育園、幼稚園、学校にいる職員の虐待に対する知識向上や未就学児宅への訪問などを強化すべきである。

他多数

4 各種団体、機関の連携体制について（2件程度）

NO.	内容
1	児童を見守る支援者が顔の見える関係をつくりネットワーク化することで、必要なことを情報共有し、困ったときの危機介入や日頃の見守りや関わりで予防することができることが大切だと思います。まずは、小地域で地域のボランティアや支援者、支援団体、学校、行政、警察関係者など地域で活躍されている方々が顔の見える関係をつくるのが一歩ではないでしょうか？
2	学校、幼稚園、保育園、市、児童相談所の連携を図る。

IX. 子育てにおける孤立化を解消するため、地域では、どのような取り組みが大切だと思いますか。また、地域で孤立の解消に至った事例があれば教えてください。

1 地域とつながりを持つきっかけづくり（8件程度）

NO.	内容
1	・地域の方と顔見知りになれるような小さなイベントや地域ボランティアの方たちの協力を受けやすい仕組みなどを考える。
2	・挨拶や声のかけ合い、地域の行事に参加。
3	・赤ちゃん訪問に主任児童委員も同行する。 ・転入してきた子どもがいる家庭に主任児童委員が必ず1度は訪するなどの取り組み。
4	・未就学児～就学児（20歳くらいまで）の子育て世代ご家族が地域に関わる機会や身近な相談場所、相談できる人が生活する中でいろいろなところに点在していると孤立を予防し解消することができるのではないのでしょうか。
5	・子連れでよく利用するお店や、地域の郵便局の人、学校の先生たちなど、普段からあいさつをしたり、声をかけ合うのがあたりまえの環境があると孤立化しにくくなると思う。

他多数

2 相談支援（5件程度）

NO.	内容
1	・助産院や保育士の相談員。
2	・Ⅷと同じ。（・春日市にある児童センターなどがあると助かるのでは？ ・利用可能な機関（ファミサポ、子育てサークルなど）を産院で紹介したり、転入者へ紹介する。 ・産院や市より支援センターへ気になる人の情報提供をし共有。）
3	・もうあるかもしれませんが… 親がなんでも相談できる窓口があり、話しやすい人材（子育ての先輩、おばあちゃん的な方）がそこにいて、ちょっと行って母は相談、子どもは遊んでもらえるようなところがあると良いと思います。 または、自宅に来てくれるのも良いかも… 片付けや掃除、子どもの世話、留守番をしてもらっている間に息抜きや病院、美容室にも行けますね！
4	・気軽に相談できる場所の提供や案内の周知。対応する人の専門性と優しさ。
5	・積極的に行政からアプローチしていくことが大切だと思う（養育訪問や電話をかけるなど）。

3 子育てに関するイベントの開催（4件程度）

NO.	内容
1	・子育て支援センターでのためになるイベントを開く。
2	・無料で行ける、ためになるイベント（栄養・母乳・育児・運動・クッキング）の開催。相談する場に集まると、やはり同じ悩みを共有することで関係が深まって、その後も相談できる。
3	・子育て世代が交流できるような地域内の行事などを利用したコミュニティの構築への取り組み。
4	・問題が起きる前に関係性を築いておき、困ったときに頼りやすい環境にしておく。 （例）赤ちゃん訪問に民生委員さんも同行する。 相談に来た方と民生委員（主任児童委員さん）をつなぐ。 行政職員が地域行事に出向き、関係性構築のパイプ役になる。同じ悩みを持つ方同士が つながれる場所（機会）をつくる。

4 親子で気軽に集える場所づくり（3件程度）

NO.	内容
1	・親子が気軽に集える場所の提供。
2	・子育て中の親子が気軽に集まれる場の提供。
3	・コロナ対策を行いながら交流ができる場（子どもの年齢にもよると思うが）があると良いと思う。

5 その他（4件程度）

NO.	内容
1	・新型コロナウイルスの影響で、子育て支援の場所（センター、児童館など）に安易に行けず、自宅での家庭保育をしている家庭が多いとされる。
2	・全ての家庭に共通する家庭における子育て、または親子関係への支援体制を構築する。
3	・保育園・幼稚園などにつながっておらず、周囲に知っている人がいないようなケース(特に両親とも地元ではない場合)については、市の子育て支援に関わる行政で把握して関わっていく。
4	・メールで誰とも会いたくない…と言いながら、お子さんの相談をされてきたお母さんがいます。メールアドレスだけで、名前も年齢も何もわからない状態での相談。やっとの思いでメールをしてこられたので、お母さんの気持ちに寄り添いながら、何度かメールをし、やっとお母さんが子育て支援センターに来て相談したいと言われ、対面での相談ができた。そこから連絡先なども聞いて電話でのやりとりやお子さんを連れて遊びに来たり、食事面で困ってあったので、保健センターの栄養士さんとも連絡をとりつなげることができた。現在も連絡をとりながら話を聞いている状態。母の声もはじめのころに比べたらずいぶん良いが、まだまだ悩みが多いので、しっかり話を聞いて対応していく予定。

X. 妊娠中や出産後の女性、その家族では、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか。

1 相談できる人、サポートしてくれる人が近くにいないこと（12件程度）

NO.	内容
1	・産前・産後による生活リズムの崩れで体調不良を起こしたり、休養がとれずストレス過多になりやすい。パートナー以外に頼れる存在がいなかったり、育児相談を気軽にできず、ためこみやすくなること。
2	・結婚などで環境が変わり、外へ出ることも少なくなってお友だちづくりに悩むこともあると思います。
3	・妊娠中や出産後はアクティブに動きづらいため、家事などもおっくうで誰かに手伝ってもらいたいと思っているのではないのでしょうか？ホルモンバランスも崩れるため情緒不安定になっています。頼れる実母や義母がいる場合はまだ良いと思いますが、その不安定で大変な時期は夫の仕事が休みやすい制度（育休とまではいなくても）が何かあると助かるなあと思います。
4	・出産前後は気分が沈みがちなのに子育てはしなければ、夫は仕事。買い物やちょっとした用事に出られずにこもりがちになる。 →子育てのちょっとした悩みにすぐ話し相手になってくれる（TELもOK）相談室が必要だと思う（もうある気がしますが…）。来るのを待つのではなく、「〇ヶ月健診の後どうですか〜？」とこちらから声かけした方が…。
5	・買い物、外出時などにサポートしてくれる人や環境があれば助かるのでは。

他多数

2 産前産後うつや身体的な変化、負担に関すること（9件程度）

NO.	内容
1	・マタニティーうつ、産後うつを予防するために相談できる場所づくり。精神的に支える。
2	・妊娠中や出産後、思うように動けなかったり、寝不足による疲れなどが解消しづらいこと。初産の場合、わからないことも多く、子どもの成長、病気などの不安が多いこと。
3	・育児不安（育児ノイローゼ）。人とのコミュニケーションづくり。
4	・買い物や病院、美容室などに自分が行きたいタイミングで行けなかったり、乳幼児を連れて行ける場所であったとしても周りの目が気になったりしてしまうと思う。 ・家族は、産前産後の母親の精神的な変化（うつっぽくなったりなど）にとまどうことが多いと思う。
5	・家事全般（食事、掃除、きょうだいなど上の子の世話、買い物）。 ・妊娠中や出産後の母親の精神的な負担。

他多数

3（特に初産の場合など）乳幼児の育児に関すること（4件程度）

NO.	内容
1	・体調や子育てに不安を感じると思うので、気軽に相談に行けるところ、子どもが遊べる無料のところをつくり、他の親とのふれあいも大切だと思う。
2	・子育てがうまくいかずに困っている。 初めての出産後、なぜ泣いているのかわからなかったり、なかなか泣きやまなくてどうして良いのかわからないことや、おっぱいやミルクを飲まないときどうしたら良いのかわからない。
3	・初産婦さんのご家庭は特にわからないことだらけで、不安ばかりだと思う。
4	・初産婦は子育てのとき、一つ一つどうしたら良いのか迷う方がいる。経産婦は上の子の赤ちゃん返りや2人の子育てに悩んでいる方が多い。

4 きょうだい児へのサポート（3件程度）

NO.	内容
1	・体調不良や出産後の兄弟児のサポートなど。
2	・上の子の面倒や預かりを頼むところがない。
3	・2児目、3児目を出産するときの上の子どもの預かり。 いざというときの手助けをお願いする人間関係と預かれるシステム。

5 その他（6件程度）

NO.	内容
1	・金銭面。
2	・子育てサロンの開設が少ない。
3	・出産後の家事や育児、家族内に病気の人がいたときの対応。 私用の際の子どもの育児など（病院にかかるときなど）。
4	・仕事復帰するために、子どもを預ける保育所がすぐに決まらないことで困っていると思う。
5	・離乳食の作り方、適した量や離乳の展開のすすめ方など。家事と育児の両立の難しさ。

他多数

XI. 現在の新型コロナウイルス感染の状況下において貴団体の活動に最も大きな影響を与えている事柄（例：相談や訪問機会の減少、人手不足、経営状況の悪化等）は何ですか。その上で今後、地域福祉活動の推進を進めるうえで取り入れるべき視点（考え方・行動）があればご記入ください。

1 日々の教育・保育・母子保健活動への影響（14件程度）

NO.	内容
1	・「コロナ」を理由に健診が未受診になる人が多い。受診勧奨 TEL、状況確認のための訪問など業務増。
2	・相談会の縮小、訪問の拒否（虐待把握のための）、乳幼児健診の個別医療機関実施。ニーズのある保護者は来所や電話を使って解決できる術を持っているが、それ以外の保護者の相談を受ける機会を失った。 コロナ禍でも実際に子どもも含め会うことは必要。コロナ禍でできないという視点ではなく、どうしたら実現できるのかを考えていく必要がある。
3	・コロナ禍では赤ちゃん訪問の訪問自体を懸念して訪問をできればしてほしくない…と言われる家庭もあるが、国で決まっている訪問ということで、なんとか赤ちゃんの顔を見ることはできている。相談は行っているが、電話での相談は増えたかもしれない。また、今までもそうだが、生後50日前後の家庭に訪問するというので、より一層自分自身の行動、体調管理、家族にも気をつけてもらっている状況がある。日々関わる市民が妊婦や小さい子を持つお母さんだったりするので、いろんな面で細心の注意を配慮している。
4	・昨年の緊急事態宣言中は相談がとても少なくなりました。学校も休校になり、在宅勤務（保護者）も加わりました。コロナの影響で生活リズムが変わってしまいました。 →関係機関の連携。
5	・支援センターの事業の中では、人数制限やランチルームが使用できないなどの影響があります。また、おうち時間が長いので虐待が表面化していないのも気になります。コロナで事業が中止になったときにこちらから発信できることをしていけないといけないと思う。

他多数

2 消毒作業など、日々の感染症対策（8件程度）

NO.	内容
1	・施設やおもちゃの消毒作業などにより忙しくなったと思う。
2	・感染症対策のため、毎日の部屋、おもちゃの消毒が増えた。 ・地域の方を招待しての行事ができない。
3	・衛生面での作業（消毒）業務の負担増。
4	・園舎内の消毒作業、行事の縮小、見直しなど。
5	・預かっているお子さんの数は同じでも、今回は教室（机、イス、ドアノブ、おもちゃなど）や子どもたちへはもちろん、トイレやバスなど感染対策でこまめに消毒をする必要があり、もう少し人手があれば…と感じました。今まではできていたスキンシップや関わりながら遊ぶことなどできないことが増え、のびのびとした園だったのに…残念に思う毎日です。

他多数

3 子育て家庭のコミュニケーション機会の減少（5件程度）

NO.	内容
1	・大きなイベントの開催ができず、親子や親同士のコミュニケーションをとる機会が減ること。
2	・面談、家庭訪問などの機会の減少。 ・学校行事や自治区の行事の減少によって、家庭と地域とのつながりが希薄になっていること。
3	・保護者参加の行事と地域交流の行事の縮小。今後も状況をみながらできる範囲で工夫しながら行う。
4	・新規の相談が増えている。特に1～2歳児は例年比でかなり多い。コロナの関係で1歳半健診が医療機関での実施になり、病院からすすめられてのケースも増。子育てサークルや保護者の集う場がなくなり、また祖父母とも会えずに相談の機会が減り、子育てに悩んだ保護者が自ら連絡してくる。しかし、現相談室の体制ではすぐ相談に応じることができず、1ヶ月後の予約になる月がずっと続いた。今は2～3週間待ち。サービスの低下。緊急度が高いケースは少しでも早くできるよう配慮している。専門家増や場所の確保が課題。 ・ワクチン接種会場にいきいきが使われるため、部屋がなくなり子どもの発達支援事業が困難になっている。ワクチン接種も最優先課題だが、困っている親子支援もストップするわけにはいかない。現在さまざまな方法を考え中。
5	・健診診査が個別となり、市の職員が直接子どもたちの様子を見て話をする機会が少なくなった。そのためニーズのある保護者は自ら相談をされるが、それ以外の保護者が公平（平等）に話を聞く機会が減少。 対面による相談は電話相談よりも実際に子どもの様子を見ながら話をするので、保護者も安心し理解が深まりやすいと感じる。コロナ禍でも誰もが気軽に相談しやすい環境づくりが必要。

4 その他（3件程度）

NO.	内容
1	・マスク着用により表情が見えないことによって、脳の発達に影響を与えている。
2	・人手不足。
3	・影響を与えているのは、マスク使用による子どもたちへ口元や表情が見せづらくなったこと。

- 地域と行政が共に支えあい、すべての人が地域社会で安心して暮らすことができる「ここに住んでよかった。住み続けたい。」と思える「福祉のまちづくり」を進めていくため、太宰府市に対するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

NO.	内容
1	・妊娠中から中学校卒業までの包括的な支援制度。
2	・子育て世代包括支援センターが開設するが、関係課、係間の連携が重要課題だと思う。0～18歳までの切れ目のない子育て支援のために、特にハイリスク家庭への丁寧な関わり、見守り支援、ケース会議などの実施。命を守り、よりよい成長を手助けするために。市民の相談に丁寧に対応し、まずは受容することが市民一人ひとりを大切にし、人権を守ることになると思います。役所の手続きはわかりにくく、対応が事務的という声をよく聞きます。マニュアルに沿って伝えていると思いますが、市民にはそう映っているようでした。1人不安な気持ちで相談に行っている保護者が、相談して良かった、力になってもらえた実感できる対応を福祉の面では、特に心がけていくことが必要だと思っています。
3	・コロナ禍でなかなか外に出ることが難しいのですが、地域との交流やご近所の方とのつながりなどを身近に感じると住んで良かった、また、ずっと住み続けたいと思えるのではないかなと思います。
4	・新型コロナウイルス感染の状況下、生活困窮家庭が増えていると思われる中、中学校の学校給食の実施が必要ではないかと思う。
5	・とにかく今はコロナに対する細かい情報をきちんと出してほしいです。近くで感染された方（名前までは必要ないです）がいるときの対処法など、きちんと指導してほしいです。安心・安全なまちづくりを期待します。
6	・中学校を給食にしてほしい。・水道代が高い。
7	・不妊治療費の増額、出産後の相談支援、教育費・給食費の無償化、退職後の一時給付や介護費用（ヘルパー含む）の助成、まほろば号の本数増など、生活しやすい支援をしていただきたいです。中学給食の提供もまだ実施していません。せめて、公約に掲げたことは叶えてほしいです。また、市で働く公務員の給料も上げてほしいです。
8	・大きな公園をつくってほしいです。
9	・子育て世代ばかりでなく、高齢者にも優しいまち（市）づくりをお願いします。子育て世代への支援金などは、私の頃に比べても充実しており、うらやましい限りですが、高齢者への支援は以前とたいして変わらないように思います。もっと楽に楽しんで生きていける福祉をお願いします。
10	・学力の低下により、園とキラキラルームを併用して通う子どもたちが増えています。キラキラルームの定員も増えていると思いますが、できるだけたくさんの子が通えるように職員の方の数を増やしてほしいです。よろしくお願い致します。
11	・子育て世代はもちろん、独身の人の老後や高齢者や障がいを持った方などが安心して相談できる窓口やリーズナブルな支援があると嬉しいです。
12	・行政の方の対応の仕方が一番大事だと思います。困っている人に対して親身になり、専門性を持って行動してください。
13	・誰が何を必要としているかをしっかり把握すること。いろんな人がいる中で、その人をアセスメントして対応することの大切さ。事務的な対応をしないこと。
14	・各課・各担当はそれぞれ自らの領域でできることをしていると思う。市役所内部のところどころでいうと、横の連携、困ったときに他課に相談、ケース会議など気軽にできるようになると良い。

NO.	内容
15	<ul style="list-style-type: none"> 福祉や子育てはお金を生みません。しかし、太宰府は良いところと思って住んでいる人たちが増えていけば、将来的に太宰府がさらに発展していくと思います。他市と同じことをしていてもだめだと思います。太宰府しかできないことをもっとみんなで出し合い、まずはやってみることが必要だと思います。近隣市に転出される市民が多いのはなぜか把握する必要もあると思います。
16	<ul style="list-style-type: none"> 地域と行政が同じ考えを持ち、一緒に支援することができれば良いのではないかと思います。
17	<ul style="list-style-type: none"> 的外れなことを書いたかもしれません。すみません。
18	<ul style="list-style-type: none"> 太宰府といえば観光が中心だと思われがち。もう少し福祉や子育てに優しいまちになるためにどうしたら良いか、いろんな案を出していくのは大事だと思う。
19	<ul style="list-style-type: none"> 他市が行っていることはもちろん行うべきだが、他市が行っていないことをする。太宰府独自の福祉ができると良いと思う。子育てで考えると乳児がいる家庭が子育てしやすい事業があると良いと思う。子育てに手厚い太宰府市であれば、若い人も集まってくると思うし、人口増加、税収入につながる。思いきった先行き投資も大事だと思う。財源が厳しい中では難しいとは思われるが…。
20	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱える家庭に対してできていないことを責めて批判するのではなく、「どうしてできないのだろう（できない理由は何か）」「どうすればできるようになるのか（当事者の話を聞き一緒に考える）」「できていることや強みは何か」を考えながら、全ての親や子どもが生き辛さを抱えずに暮らすために自分たちができることを探す姿勢が大事だと考える。